

東日本大震災発生から 1 年 CIVIC FORCE の活動報告



被災地の1年

2011年3月11日14時46分、三陸沖から茨城沖の太平洋沿岸で、マグニチュード 9.0 の巨大地震が発生し、それに伴う津波、余震によって多くの命が犠牲になりました。未だ3,000人以上の方々が行方不明と言われ、生き残った人々の生活も一変しました。

東日本大震災から1年が経過した今、被災地の人々は何を思い、何を感じているのでしょうか。

——「何もかも奪った津波が未だに憎い。初めはもうどうすることもできず、失ったものばかり考えては涙を流す日々だったが、日を重ねるごとに少しずつ前向きに考えられるようになってきた。

まだ1年。これからは1年目より2年目、2年目より3年目と少しずつ前に向かっていきたい」

——「目の前で津波にさらわれた家族のことを考えている。あのとき、なぜ助けることができなかったのか、自分が代わりに死ねば良かったのではないかと思いつけている」

——「失ったものはもう帰ってこない。生かされた命を大事にして、とにかく先に進まなければならない」

——「1周年は1周忌でもある。復興と言われてもピンとこないし、1年を節目ととらえることなどできない」

——「震災後、とにかく走り続けてきた。1年の区切りとなる日は、これからも続く前途多難な日々を前に進めるために、仲間と会ってこれまでを振り返り、お互いのことを話し合いたい。奮起するための一歩を、一人だけで踏み出すことはできない」

——「外から来る人に話を聞かれ、話すたびに思い出して、辛くなることが多々あった」

——「とても長かった1年。全国から来てくれたたくさんのボランティアや支援団体の方に支えられ今日を迎えられている。外から来た人がいなくなった後も町を衰退させないために、これからは自分たちでがんばっていかなければならない」

あの日の記憶、1年の道のり、将来への不安——それぞれが持つ思いは一人一人異なり、これからはますます個々の力と、人と人とのつながりが重要になってきます。

Civic Force の1年

この1年は、Civic Forceにとって大きな挑戦の年となりました。2009年1月に「日本で大規模災害が起きたとき、被災者のあらゆるニーズに応えられるよう、企業・行政・地域の人々と連携して、かつてないスピードで質の高い支援を提供すること」を目指して設立し、最初の大規模ミッションとなったのが東日本大震災支援です。

緊急時の物資調達・配布活動に始まり、被災地における中間支援組織としてできることは何か、地元の人々をいかにサポートし、より長期的な視点で復興を後押しすることができるか、そんな思いを抱きながら活動を続けてきました。

12回目のマンスリー・レポートでは、人々の元気の源となる産業復興やまちづくりのサポートを通じて、震災以前よりさらに活力あるまちの復興を支えるべく、様々な方面からの支援を続けるCivic Forceの現在の活動についてご報告します。また、今後どのような方針で東日本大震災の復興とかかわっていくのか、広く理解していただくための一助となれば幸いです。

■ ホームページ改訂のお知らせ

Civic Forceのホームページが3月11日からリニューアルしました。東日本大震災支援のこれまでとこれらについて、より分かりやすくお伝えするとともに、次の災害に向けた“備え”の必要性を広く知っていただくため、事業の3本柱「災害即応体制を創る」「被災地を支援する」「アジアに展開する」を中心に据えて紹介しています。<http://www.civic-force.org/>

■ Civic Force 東日本大震災支援の今 ■

東日本大震災発生後、Civic Force は翌日にへりて被災地に入って以来、緊急支援物資の調達・配送、手作り風呂の設営・運営、大型カーフェリーの就航事業、耐震型の可動式居住空間を提供するトレーラー／コンテナハウス事業など、企業や行政、NPO、そして市民の皆様の力を借りて、様々な支援を続けてきました。

災害支援にかかわる Civic Force の役割とは何か——緊急・復旧フェーズを経て、震災から1年が経過した今、もともと「災害緊急支援のプロ組織」として立ち上がった Civic Force は、次の災害に向けた準備を進めるため、一時、東北での事業継続を断念することも考えました。しかし、被災者や寄付者の皆さまなど多くの関係者と協議を重ねる中で、被災地における自らの役割を問い直し、地元の人々が主体的に始めた新しい「まちづくり」の動きを影から支える“中間支援”の仕事の重要性を認識しました。

そして Civic Force は現在、震災から1年をかけて築いてきた地元の人々との信頼関係と、被災地内外の知的資源・ネットワークを生かしつつ、震災で失われがちなコミュニティの再生と創造を目指して活動しています。最近の活動の一部を紹介します。

カーフェリー「ドリームのうみ」が広島に帰還

震災で甚大な被害を受けた宮城県気仙沼市の有人離島「大島」の海路交通事情を改善するため、Civic Force が2011年4月から続けてきた「カーフェリー就航事業」が2月末日に満期終了しました。

カーフェリー「ドリームのうみ」は、気仙沼—大島間を航行運航していたフェリー2隻が被災したことを受け、Civic Force の仲介支援によって、2011年4月27日から2012年2月29日まで、広島県江田

島市より無償貸与されました。普通車20台、300人を輸送でき、震



災直後には大量の生活支援物資や工事車両を運搬。島民の通勤や通学、通院の足として、のべ車両5万台、25万人が利用しました。

役目を終えた「ドリームのうみ」は江田島市に返還される予定で、3月2日に気仙沼を出港、3月14日には江田島市で帰港式が開催されます。

なお、3月からの大島間航路は、旅客船「海来（みらい）」とフェリー「亀山」の2隻で交互運航しています。

社員ボランティアがいかだづくりをサポート

宮城県気仙沼市の大島で、Civic Force が2011年7月から続けてきた「社員ボランティア派遣プログラム」。2012年2月から、その第2期が始まりました。

同プログラムは、富士ゼロックスやグローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワーク（GC-JN）との連携により、社員がボラン



ティア活動をする事業として継続して実施しています。9月から11月までの第1期では9社のべ284人が、がれき撤去や家屋の片付け、写真洗浄などを行いました。

第2期では、急がれる産業・漁業復興を見据え、カキやホタテの養殖いかだづくりなどを実施しています。2月は、のべ28人が参加。漁師さんたちのいかだづくりの作業を手伝ったり、宿のご主人に震災時の話を聞くなど、地元の人々とのコミュニケーションを図りながらボランティア活動を行いました。

企業や行政、NPOとの連携による大規模災害の支援活動を専門とする Civic Force は、この社員ボランティア派遣プログラムを通じて、複数企業からの社員を組織化し、継続的に被災地に送るプログラムを構築してきました。第2期でも企業との連携により資金供与だけではない被災地支援の在り方を模索し、人々のニーズに合致する支援を目指します。

「NPO パートナー協働事業」の今

変わり続ける被災地のニーズに応えるため、Civic Force が 2011 年 4 月から実施してきた「NPO パートナー協働事業」。これまでに 23 団体とともに 25 事業を展開し、新たに新規事業を開拓中です。第 3 期に入った現在は、人と人をつなぐまちづくり支援などに力を入れています。

現在実施中の事業は以下のとおりです。詳細はホームページをご覧ください。

■第Ⅱ期（専門性・新規性があり、かつ地元の被災者コミュニティが参加する事業）

- ◆地域再生プロジェクト
 - ＝カーシェアリング運営（宮城県）
- ◆森は海の恋人
 - ＝まちづくり復興支援（宮城県）

■第Ⅲ期（中長期的な視点をもつ地域復興のためのコミュニティ支援、まちづくり支援事業）

- ◆気仙沼復興協会（KRA）
 - ＝仮設住宅の孤立化防止（宮城県）
- ◆小泉地区明日を考える
 - ＝まちづくり復興支援（宮城県）
- ◆ネットワークオレンジ
 - ＝マルシェ開催による地域活性化（宮城県）
- ◆気仙沼ボランティアネットワーク聖敬会
 - ＝コミュニティづくり支援（宮城県）
- ◆日本の森バイオマスネットワーク
 - ＝復興共生住宅の運営強化（宮城県）
- ◆ピースジャム **新規**
 - ＝乳幼児の母親サポート（宮城県）
- ◆気仙沼みらい計画・大沢チームほか **新規**
 - ＝大沢地区の復興まちづくり支援（宮城県）

「ユニクロ復興応援プロジェクト」と協働

Civic Force へのご寄付を原資に、昨年 12 月に正式設立した「一般財団法人東北共益投資基金」が、2012 年 3 月から開始の「ユニクロ復興応援プロジェクト」の協働 NGO の一つに選定されました。ユニクロは被災地にて自立支援、雇用創出などに取り組む団体への資金拠出や社員ボランティア派遣などを通じて、復興支援に取り組む表明しています。

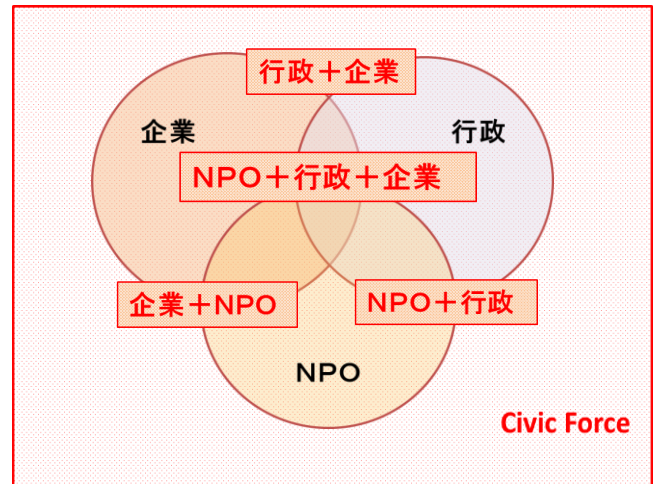


■Civic Force 東日本大震災支援の今後■

Civic Force が東日本大震災支援にかかわってから 1 年。刻一刻と変化する被災地のニーズに応え続けるため、様々な活動を実施してきましたが、今後は、行政やシンクタンク、研究機関などとの連携による復興政策立案や産業復興を目指すとともに、NPO パートナー協働事業第 3 期で掲げる地元根差した団体のスタートアップをサポートします。政府機関や行政との連携、民間企業や NPO との連携の双方からのアプローチを通じて、複合的な視点で、人と人をつなぎ、中長期を見据えた復興に力を入れていきます。

■行政やシンクタンク、研究機関などとの連携による復興政策立案や産業復興支援

- 例)
- ・自治体の復興プロジェクトにおける政策立案・実現化機能の支援
 - ・雇用創出・所得向上のための新産業勃興を通じた地域活性化支援
 - ・医療サービスへのアクセス改善支援



- 地域に根差した団体のスタートアップ
 - 地域復興にかかわる事業の発掘を組立て
- 例) 「NPO パートナー協働事業」を通じた中長期的な地域復興を担う人材や団体の育成

寄付金執行状況と執行計画のご案内

東日本大震災に関連する寄付金について、2月末日時点で、約12.12億円のご寄付をいただいています。下記2月末日現在の執行済み確定金額をご報告申し上げます。金額は暫定・速報値です。寄付金は、理事会の承認に基づいて執行しています。なお、2011年度の決算と事業報告書はホームページ上で公開しています。

※次回からの会計報告は4半期に1度とさせていただきます。

| 事業 | 金額 |
|-------------------|-----------|
| 緊急・復旧支援活動 | 5億3,637万円 |
| 緊急支援物資の調達・配送 | 2億3,263万円 |
| 生活改善のための風呂設営 | 1,879万円 |
| 離島へのカーフェリー就航 | 1,922万円 |
| NPOパートナー協働事業第1・2期 | 1億4,679万円 |
| 多目的・稼動型拠点の提供 | 6,801万円 |
| ボランティア受入用テント | 3,688万円 |
| 復興支援調査事業 | 1,404万円 |
| 復興支援活動 | 1億2,919万円 |
| 産業復興支援基金事業 | 9,580万円 |
| 社員ボランティア派遣 | 156万円 |
| NPOパートナー協働事業第3期 | 3,183万円 |
| 事業共通の諸経費* | 5,220万円 |
| 合計： | 7億1,776万円 |

※1万円以下は四捨五入

東北支援「指定寄付」の取り扱い変更のお知らせ

2012年3月よりCivic Forceの寄付金の取り扱いが変わりました。震災発生から2月末まで東日本大震災支援活動向けの「指定寄付」は、全額指定された活動の事業費として活用していましたが、3月1日以降、全体の15%を運営費として活用させていただいております。運営費とは、Civic Forceの東京事務所運営にかかる費用や次の災害に備える平常時の活動のための費用で、Civic Forceの根幹を支える活動のために活用します。

震災から1年が経過し、東日本大震災に向けた支援に加え、次の災害に備える活動をさらに強化すべく、このような措置を取らせていただくこととなりました。引き続き変わらぬご理解・ご支援のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。

ご寄付の方法が増えました

Civic Forceへのご寄付はこれまで銀行、ゆうちょ、クレジットカードでのお振り込みをお願いしておりましたが、2012年2月10日からシステム移行により、上記に加え、ペイジー、コンビニ、Edy、Suicaでもご寄付いただけるようになりました。詳しくはホームページをご覧ください。

マンスリーサポーター募金のお願い

災害支援は、日ごろからの備えが緊急時のスピードと規模、支援品質に多大な影響を与えます。東日本大震災での経験を通じ、そのことを改めて実感したCivic Forceは、現在、次の大規模災害に向けた準備を始めています。今後も国内企業をはじめ、行政や専門性のあるNGOと、精力的に協議・準備を進める必要があります。

Civic Forceの活動は、まさに「Civic Force (=市民の力)」によって支えられ、ここまで活動を続けることができたが、平時から備えておくためにも、皆様の力が必要です。マンスリーサポーターとして、毎月定額(1,000円単位)をご寄付いただく形で、大規模災害への備えに必要な活動に参加してください。

今から次なる災害に備え、日本のどこで災害が起きても、今回よりさらに効果的で効率の良い支援活動が展開できるようご協力いただきたく、どうぞよろしく願いいたします。

平常の活動へのご支援は下記口座で受け付けています。

■銀行：三井住友銀行 青山支店 普通 6953964

■ゆうちょ：00140-6-361805

(上記いずれも口座名義は「公益社団法人シビックフォース」です)

■クレジットカード：Civic Force ホームページから「オンライン募金」をクリックしてください。

※毎月11日前後に発行しているマンスリー・レポートは、

<http://civic-force.org/news/monthly/> からご覧いただけます。



@civicforce



<http://www.facebook.com/civicforce>



<http://www.youtube.com/user/civicforceorg>